

令和8年度(2026年度) 施政方針

令和8年(2026年)3月定例会市議会の開会に当たり、令和8年度(2026年度)に臨む、施政の基本方針を申し上げ、議員の皆様及び市民の皆様にご理解とご協力を賜りたいと存じます。

(「飯山郷創～世界にひらく 里山の未来～」の実現へ)

私が市長に就任してから、約3年4か月が過ぎました。

就任以来、「本気で聞く、本気で語る、本気でやる」という政治姿勢を旨とし、公約の実現と第6次総合計画の着実な推進に全力を尽くしてまいりました。

具体的には、安心・安全な住みよい元気な地域のために、雪かき支援員制度の創設や定着、地域おこし協力隊の積極的な活用、子育てしやすい地域とするために、子どもの医療費完全無償化、保育園・幼稚園の給食費完全無償化、保育園の炊き立て米飯の提供、おむつの持ち帰り不要化、小・中学校給食費の7割負担軽減を実現してまいりました。

また、クマやイノシシなどによる人身被害や農作物被害を防止するため、猟友会会員の出勤手当の引き上げなど、より一層力を入れるとともに、市内の公共交通の利便性を高めるために、いいやま相乗りタクシーやライドシェアタクシーの実証実験を市町村の境界を越えて行ってまいりました。

そして、スポーツを活かした地域づくりの一環として、2028国民スポーツ大会開催に向け、市営飯山シャンツェや北竜湖などの会場整備及び選手強化に取り組んでまいりました。

これらの施策の多くは、市民の皆様との共創で着実に成果を上げつつあると実感しております。

一方で、人口や経済など、課題はまだまだ山積しております。これらの課題については、これからも市民の皆様とともに知恵を出し合い、解決に向け、しっかり向き合ってまいります。

新年度予算編成にあたっては、昨年度に引き続き、市民の皆様から市政についてのご意見を募集させていただきました。私の政治姿勢「本気で聞く、本気で語る、本気でやる」に沿っての対応で、本年は昨年より82件を上回る103件の貴重なご意見をいただきました。大変ありがとうございました。このうち21件のご意見は、新年度予算案に反映させていただきました。他のご意見についても今後の施策の中で取り組みを考えてまいります。

(国、県の状況)

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

国においては、1月23日に閣議決定されました「令和8年度(2026年度)

の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」で、我が国の経済は、「責任ある積極財政」の考え方の下、経済財政運営を行い「強い経済」を実現していくこととされ、令和8年度(2026年度)の経済見通しにおいては、引き続き国内需要中心の経済成長実現が期待されています。また、実質GDP成長率は1.3%程度、名目GDP成長率は3.4%程度、消費者物価は1.9%程度の上昇率になると見込まれております。

令和7年(2025年)12月26日に閣議決定された国の新年度予算案は、令和7年度(2025年度)補正での対応に引き続き、切れ目なく「強い経済」を実現する予算とされており、経済・物価動向の反映、防衛力の強化、教育無償化を含むこども・子育て支援、GX再生エネルギー転換投資推進、AI・半導体産業基盤強化などを重要政策課題とし、一般会計総額が122兆3,092億円と、前年度当初比で7兆1,114億円、約6.2%の増となる予算規模となっています。

長野県におきましては、信州未来共創戦略において2050年には県の総人口が約3割減少すると推計され、「人口7がけ社会がやってくる」との認識に立ち、対話と共創に努め、県民起点・現場重視で、確かな暮らしを守り、ゆたかな社会を創るための新年度予算案として、「生産性向上、人材確保等を通じた産業競争力の強化」をはじめとした10の重点項目や、人口減少への対応、総合経済対策の実行などの内容に予算が計上され、新年

度一般会計予算総額は1兆659億円、前年度と比較し540億円、約5.3%の増となったところです。

(飯山市の重要項目)

このような状況の下、飯山市では令和8年度(2026年度)は、令和7年度(2025年度)に掲げた「経済を動かす、暮らしを守る」のスローガンのもと、次の3つの項目を中心に任期4年の集大成として全力で取り組んでまいります。

1つ目は、人口対策です。その対策として、現在実施しています公共交通の実証実験の結果を分析し、公共交通の利便性向上を図るとともに、子育て支援を更に充実するなどの総合的な施策を講じます。また、旧城南中学校跡地及び旧4小学校跡地の利活用を進めることにより、人口流出に歯止めをかけるとともに、新たな人の流れを創出してまいります。

2つ目は、農業・観光など産業振興対策です。中小企業者や農業事業者の持続的な発展により、市全体の経済や産業の発展を実現するため、その基本理念となる「飯山市産業振興条例」の制定の準備を進め、その取り組みをより戦略的かつ効果的に推進してまいります。

3つ目は、2028国民スポーツ大会の開催に向けた、市営飯山シャンツェの人工芝化(サマー化)を含む大規模改修を実施してまいります。この整備は、単なるスポーツ施設の改修にとどまりません。飯山市の未来への投

資であり、観光振興や地域の持続、発展につながる重要なプロジェクトであり、議会、そして市民と一体となって、取り組んでいかなければならない課題と考えております。強い決意を持って本事業を進めてまいります。

(令和8年度(2026年度)予算案概要と施策)

それでは、新年度予算案の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で過去最高の183億1千万円を計上しました。2028国民スポーツ大会開催に向けた経費の増により、前年度比14億8千万円、8.8%の増となります。

歳入について申し上げます。市税については給与所得の増が見込まれることから、令和8年度(2026年度)から適用される給与所得控除の見直しなどを伴う税制改正の影響を考慮した上で、前年度比1千4百万円増の24億4千2百万円を計上、普通交付税と特別交付税を合わせた地方交付税は前年度比2億8千万円、約4.6%増となる63億3千7百万円を計上し、国県支出金のほか、ふるさと納税を活用した基金等の活用、70%という高い交付税措置率の過疎対策事業債を中心とした市債等で歳入確保をいたしました。

次に歳出について申し上げます。先程述べました3つの項目に加え、各地で激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、千曲川の内水排除施設整備や、避難所の環境整備の推進などの事前防災対策、地域の持続化や元気化のため、地域おこし協力隊及び集落支援員制度の積極的な活用、また、令和7年度の国の補正予算の重点支援交付金を活用し、物価高騰が長期化

する中、市民生活を支援し地域経済の活性化を通じた地域振興を図るため、令和7年度(2025年度)1月議会にて議決された「飯山市市民生活応援券」をできるだけ早期に全市民に配布するとともに、令和8年度(2026年度)においても、本交付金を活用し、燃料費高騰や運転手不足などにより貸切バスの料金値上がりの影響を受けている飯山市内への宿泊を伴う学習旅行に加え、一般の旅行も含んだ合宿等の誘致への支援や、原油価格及び物価の高騰に伴い光熱費、燃料費等の上昇の影響を受けている市内の社会福祉施設等の負担を軽減するための支援などを行い、公約に基づく重点政策と第6次総合計画に掲げる基本目標と整合を図りながら、目標達成への着実な推進に重点をおいた予算を編成したところです。

以下、新年度の主な施策について、前期基本計画に掲げる5つの基本目標に沿ってご説明申し上げ、ご理解いただければと存じます。

一つ目は、「美しい自然環境を守り、クリエイトするまち」づくりであります。

ご承知の通り、飯山市は豪雪地帯で、この雪は時として私たちの生活に困難をもたらすものとして捉えられてきました。しかし、今こそこの雪を、飯山市の貴重な観光資源として積極的に活用し、地域の活性化につなげる時が来たと考えております。

令和8年度(2026年度)は、今年度、大阪で開催しました天然雪を用いたスノーワンダーランドを新たに東京、名古屋でも開催し、このイベントを

通じて、都市部の方々に飯山市の魅力を直接体感していただき、「飯山市」の知名度や認知度を高め、観光誘客、農産物の販売促進などにつなげてまいります。

さらに、雪国に暮らしている人たちが、様々な交流・活動を通じ、雪国の未来を考える「雪の市民会議」を7月に飯山市においては、初めて開催いたします。

また、市内の中小企業者等が新技術の取得や、既存の商品や製品から新たな価値を生み出すことなどに対し、最大100万円の補助金を交付する事業に約500万円を計上し、新技術や新製品の開発を積極的に後押しすることで地域産業の振興や活性化に取り組んでまいります。

二つ目は、「未来を拓く子どもたちが育つ共育のまち」づくりであります。

子育て世代への支援としては、令和5年度（2023年度）から段階的に取り組んできた小・中学校給食費への公費補助について、新年度から補助率を現行の7割から9割へ拡充し、より一層の保護者負担の更なる軽減を図ってまいります。また、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向け、3月に飯山市として、「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行うことと併せ、0歳から中学生までのお子さん一人に対し5,000円分の「こどもまんなか応援券」を配布し、一人ひとりの子どもの育ちを応援

するとともに、子育て世帯への支援を確かなものにしてまいります。

併せて、新年度に新たに助産師1名を任用し、赤ちゃんとその家族に寄り添った伴走支援の充実を図り、妊娠・出産への不安や負担軽減に取り組んでまいります。

また、現在策定中の「飯山市第3次教育大綱」の理念に沿って、生涯にわたりスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築するとともに、少子化や教職員の働き方改革への対応として、休日の中学校部活動の地域展開を近隣自治体と共に進めてまいります。

三つ目は、「世界に誇れる技術を持ち、産業が活発なまち」づくりであります。

農業は、飯山市の基幹産業であります。農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休荒廃農地の増加が大きな課題となっています。

これらの課題に対応し、農業者の経営の継続及び安定化を図るために、農業機械導入支援に4,450万円、農産物の生産に係る新技術や新品目等の導入などの取り組みに対して500万円を計上し支援するとともに、学校給食として令和8年(2026年)産の地元産特別栽培米を1kg1,000円で買い入れてまいります。これは同時に、食育、ふるさと教育という面でも大きな意義を有するものであります。

また、遊休荒廃農地の再生支援についても、対象面積を、現在の上限10

アールから倍の20アールへ拡充し、遊休荒廃農地の解消と有効活用を推進してまいります。

近年、被害が拡大しております鳥獣対策としては、熱感知式カメラ搭載のドローンを導入し、効果的な監視につなげるとともに、子どもたちの安全を最優先に考え、令和8年度（2026年度）から、まず市内の保育園にAIカメラを設置することで被害を未然に防ぐよう取り組んでまいります。

商工業につきましては、地域産業の担い手を確保するため、地域の仕事をまとめて、例えば、春は農業、夏は観光業、秋は製造業、冬は除雪作業といったように、季節ごとに異なる仕事を組み合わせ、年間を通じて安定した雇用を生み出す、特定地域づくり事業協同組合を設立するとともに、デジタルスキルの習得を通して、個々のライフスタイルやキャリアに応じた、女性の多様な働き方の実現を支援してまいります。

また、第6次総合計画に沿って、既存の資源を最大限活用し、新たな価値を創造していくことが大切です。旧城南中学校の利活用については、第1優先交渉権者である栄フロンティア株式会社さまとの協議を早急に進め、旧4小学校の利活用についても、地域の皆様の声についてしっかり耳を傾け、共創の精神で利活用ビジョンをまとめてまいります。

四つ目は、「一人ひとりが生きがいを持って挑戦できるまち」づくりであります。

2028国民スポーツ大会の開催に向け、飯山市は、この大会の主要競技会場として選ばれた栄誉を担っております。この機会を最大限に活かし、スポーツ振興と地域活性化を図ってまいります。

そのためにも、市営シャンツェでは人工芝化（サマー化）を含めたジャンプ台整備を行い、カヌー会場についても必要な整備を進めてまいります。

特にジャンプ台の人工芝化（サマー化）については、スキージャンプに関わる人口の減少や施設の活用に関し慎重な声も聞かれる中、野沢温泉村、木島平村、そして飯山市の近隣スキークラブが「スキージャンプの協力体制に関する覚書」を今年1月に交わし、ジュニア育成や大会運営、施設の有効活用などスキージャンプの普及に自治体の枠を超えて一致協力していくことを確認され、スキー文化の継承と広域連携によるスキー振興の第一歩を踏み出されました。

先日閉幕したミラノ・コルティナオリンピックでスキージャンプ競技に出場した野沢温泉村出身（飯山高校卒）の丸山希選手は、近隣地域の仲間との合同練習を通じ、競技者としての下地が野沢温泉村のジャンプ台だけでなく飯山シャンツェでも培われ、一昨年も飯山シャンツェで練習トレーニングをされています。スキークロス競技に出場した地元の小林竜登選手（飯山高校卒）も、地元スキークラブをはじめ、近隣スキークラブの協力や強化があつての、この度の活躍であったと語っています。丸山選手らの活躍は、世界中、日本中に感動を与え、私たち市民にも大きな大きな元気

と勇気を与えてくれました。私は、北信地域全体のスキー振興を図っていく使命の尊さを、再確認いたしました。議員の皆様や市民の皆様はいかがでしょうか。

そして、スキー以外のジャンプ台の活用についても、今年9日に、飯山市や戸狩温泉スキー場とゆかりが深い、株式会社ザ・ファーストさまと「スポーツコンサルティングに関する連携協定」を結び、今後は、タクカップを含む有名アスリートが出演するスポーツイベントの開催など、飯山シャンツェの多面的な利用を促進してまいります。また、人工芝化(サマー化)により、約30台分の駐車場として使っていたスペースが使えなくなることになりますが、市営シャンツェ周辺に新たに約60台分の駐車場を整備し、国スポ開催のみならず、今後の活用に活かしてまいります。

これらの整備や取り組みにより、国民スポーツ大会の成功と円滑な運営、競技力向上と次世代アスリートの育成、スポーツツーリズムの促進による地域経済の活性化、スポーツイベントの誘致能力の向上、といった多くの相乗効果に期待するものであります。

五つ目は、「安全で安心して暮らしを愉しめるまち」づくりであります。

住民の日常生活や観光客の交通手段を確保するため、公共交通の利便性向上と持続可能な交通システムの構築を目指し、昨年10月から本年1月までは市域を越えた相乗りタクシーの実証実験を実施し、昨年12月から本年

3月まではこれも市域を越えたライドシェアタクシーの実証実験を実施しております。この実証実験の結果を分析し成果を活かし、さらにブラッシュアップし、最適な公共交通システムの構築に取り組んでまいります。

また、飯山市は、豪雪地帯で毎年厳しい冬を迎えます。この厳しい自然環境の中で、全ての市民が安心して暮らし続けられる地域づくりは、市の重要課題の一つです。特に、高齢者や障がいのある方々にとって、冬期間の除雪作業は大きな負担です。そのため、道路除雪の体制の維持はもちろんのこと、令和5年度(2023年)から本格実施しています雪かき支援事業による除雪困難世帯への支援や充実も引き続きしっかり定着させてまいります。

防災減災に向けましても、今年度に引き続き信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおいて国が行う千曲川の堤防整備に合わせた内水排除施設の整備を着実に進めます。また、避難所についても、エアーマットやパーテーション、移動式エアコンについて国の交付金を活用して購入し、環境整備を推進します。

その他、令和8年度(2026年度)に、新たに取り組んでいきたいこととして、くじびき民主主義という考え方にに基づき、住民基本台帳などから無作為抽出によって選ばれた市民により、地域の課題を「自分ごと」として考える場、「自分ごと化会議」の開催があります。これは就任以来、本気で

聞くとの方針の下、市民の市政への関心をどう高めていったらいいのかという課題とともに、公募による住民会議を開くと、どうしても特定の参加者に偏る傾向にあり、また、団体からの推薦や行政などの指名で決めるやり方も同様の課題があると感じているところでした。抽選（くじ引き）であれば、年齢、性別、住む地域、職業、価値観などが異なる、多様な住民の参加が可能になるという考えからです。

この手法は、日本では一般社団法人構想日本という団体で開発され、ノウハウも蓄積されており、全国160以上の自治体で既に取り入れていています。「集落の課題」や「まちづくり」、「地域公共交通」などテーマはさまざま考えられますが、ぜひこの手法を活用して、市民の市政への関心を高めるとともに、さまざまな意見やアイデアをしっかりお聞きする場としていきたいと考えています。

以上、施策の概要について申し上げました。

最後になりますが、就任時に掲げました政策目標の実現に向けて、これまで様々な施策に取り組んでまいりました。その成果は、徐々にではありますが実を結び、確実に市民生活に反映されつつあると実感しております。

しかしながら、まだまだ解決すべき課題は多く残されています。残された任期、これらの課題に真摯に向き合い、市民の皆様の期待に応えるべく、全力で取り組む所存であります。

市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご
協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

令和 8 年(2026年) 2 月

飯 山 市 長 江 沢 岸 生